

## <トリックアート>

錯視とは視覚の錯覚のことです。

刺激対象が特別の形状や配置にあるとき、実際とは違った形や大きさ、性質のものに見えてしまう現象です。また、今見ているものの錯覚だけでなく、見た影響があとに残って、その後の知覚が変わってしまう「残効（ざんこう）」とよばれる錯覚もあります

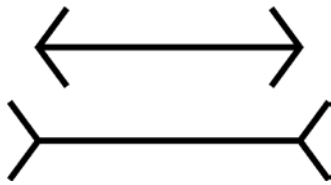
錯視のメカニズムはまだまだ謎だらけです。脳が周りの情報に惑わされて、「認識のミスをした」といいますが、逆に考えると、脳の素晴らしい働きによって起こると言う事もできます。

目から入った情報は、脳によって一瞬にして収集・処理・理解・認識されます。つまり、「見る」というのは脳で行われている大変高度な働きなのです。錯視は、目から入った様々な情報を脳が処理計算したり、逆にあえて計算しなかったり、また、予想したりすることによって起こるのです。

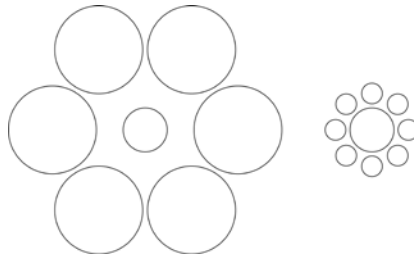
### 1. 幾何学的錯視

大きさ（長さ・面積）、方向、角度、曲線などの平面図形の幾何学的関係が、ものさしによって測った客観的關係と食い違って見られる錯視現象です。

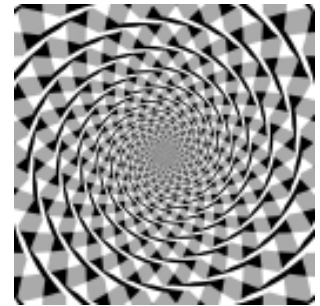
例… 他にも「エイムズの窓」「ポッゲンドルフ錯視」など



「ミュラー・リヤー錯視」  
2つは同じ長さだが、  
下の方が長く見える。



「エビングハウス錯視」  
中心にある円は同じ大きさ  
だが、違って見える。

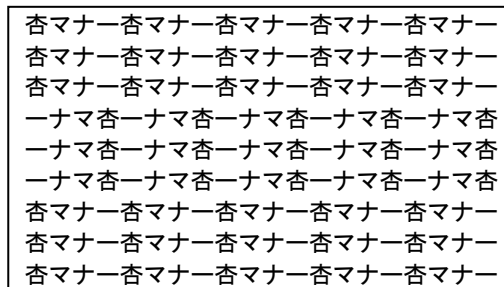


「フレイザー錯視」  
同心円が渦巻きに見える。

### 2. 文字列傾斜錯視

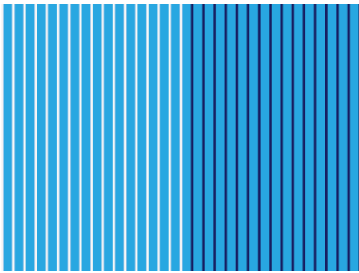
平行に並べた図形の模様を均等に上下にずらすと、図形が傾いて見える錯視。

例…

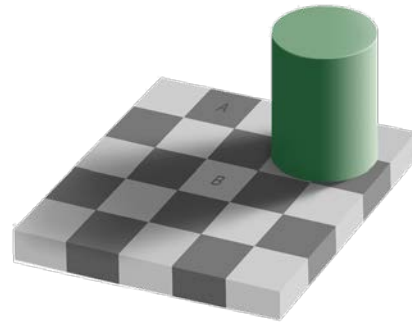


### 3. 色に関する錯視 (ミカンのネットやオクラのネットの色でそれぞれのものがより鮮明に)

例… 他にも「色の対比」「ベンハムのコマ」「チェッカーシャドウ錯視」など



**「色の同化」**  
どちらも同じ色  
だが、元の色より  
も線の色に似た  
傾向になる。



**「チェッカーシャドウ錯視」**  
AとBのタイルは  
同じ色。